

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	観光情報センター管理運営費								
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 施 設 係		作成者	高橋和宏			
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ			
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし							
	主要施策	観光客受入態勢の整備				29			
予 算 費 目	一般	会計	7 款	商 工 費	1 項	商 工 費	6 目	観光情報センター費	
事 業 期 間	平成		年度 ~ 平成		年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス		☐ 公共事業		☒ 施設維持管理		☐ 補助金		☐ 内部管理
根 拠 法 令 等									
事 務 区 分	☒ 自治事務		☐ 法定受託事務						
運 営 方 法	☐ 直 営		☐ 直営（一部民間委託）		☒ 民間委託(全部)		☐ 補 助		

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	観光客並びに鉄道・バス利用者
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	利用者に対して観光案内・観光情報の提供を行い、市の観光振興を図る。また、観光客並びに鉄道・バス利用者の利便を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	仙北市田沢湖観光情報センターにおいて、観光案内、観光情報の提供業務を行うと共に、施設の維持管理業務を実施する。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	会館総時間数	h	3,650	3,650
	成果指標	案内業務件数(電話案内含む)	件	15,957	20,519
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)		19,366	19,561	
	財源内訳	国 庫 支 出 金			
		県 支 出 金			
		地 方 債			
		そ の 他	20	16	
		一 般 財 源	19,346	19,545	
	人 件 費 (B)	—	785	807	
		職 員 数	0.1	0.1	
		職 員 平 均 人 件 費	7,853	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト	—	20,151	20,368	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	5,521	5,580	
		—			
	市民1人当たりのコスト(円)	—	632	649	

【事務事業の今までの成果】

平成9年秋田新幹線の開業に併せ、観光情報の収集・発信、総合的なインフォメーション機能を持つ施設として、また新たなシンボルゾーンの構築を目的として建設された。高速交通体系の中での秋田県の玄関口であり、広域観光の結節点でもあることから、市内・県内の観光情報の発信をはじめ、総合的なインフォメーションセンターとしてその役割を果たしてきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	観光立国宣言におけるビジットジャパンキャンペーンの推進、I案内所をはじめとした受け入れ態勢の充実
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	市民や観光客に対する案内(対応)はよい。また、児童・生徒の絵画や芸術団体等の作品展示など施設は有効に活用されていると思うが、観光案内機器の老朽化による不具合が気になるところである。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続(実施)	施設内の情報発信・案内設備の老朽化。当時としては最先端のものが、現在では取り替えのきかないものとなっている。
	B	見直しの上で継続(実施)	
	C	大幅な見直しの上で継続(実施)	
	D	休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

施設内の老朽化している設備については、使用しているソフト面のデータを生かしつつ、取り替えのきく安価なものへシフトしたい。インフォメーションセンターとしての役割については、国、県の施策等踏まえタイムリーな情報提供を行うと共に、さらなるホスピタリティを伴った受け入れ態勢を整えていく。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	指定管理者制度導入している施設である。 今後は更に利用者の利便性を考慮し、現状のような効率的な施設運営に努めていただきたい。

一次評価診断図

